

「まごころ通信」

事務局（書記） 新井国彦

〒370-0042 高崎市貝沢町 4 4 7

TEL 027-361-9731

第 42 回の塾は、1 月 16 日（水）午後 7 時～高崎市東部公民館の図書室で行いました。今回は、吉井入野中の針谷朋之先生をお招きし、陸上部指導のを中心にお話いただきました。担当の陸上部は、県駅伝で上位入賞、また全国中学校大会に 1500m 走優勝者を出すなど、目覚ましい実績を挙げています。

今回の参加者は 19 名でした。針谷先生の指導のキーポイントであるチームワークの養成についてうかがう中で、仕事も社会もチームワークが大切なのだと思いを新たにしました。

内堀塾長あいさつ

塾長は、池田稔泰先生の「めだか通信」にある“授業は教師の生きざま”についてごく短く紹介されました。

「教師自身が主役となる授業では子どもは伸びず、むしろ一歩引き下がって見守り引き出す教師のところでは自分の力を出し切るものだ。授業とは、教師の生き方が問われる場所である。」

キャプテンシーを大事にした指導

ご自身のこと

もとはラグーマンである針谷朋之先生は、高校ではラグビーの常勝チームで過ごし、進んだ大学では弱小チームから次第にチームを盛り立てていったそうです。どちらも得るところがあったとのことですが、キャプテンシー（チームや団体を統率する能力）の大切さは、いつも感じていたそうです。昭和 57 年群馬の教師になる時は、翌年の 58 国体（群馬）に選手で出るつもりでいましたが、いざ国体となってみるとベンチに入れず薬缶持ちをし、順風満帆のラグビー人生に挫折感を味わわせられました。

陸上競技とチームワーク

以前に勤めた入野中には 4 年前に 15 年ぶりで戻りましたが、トラックは草だらけで陸上部の低迷を物語っていたそうです。半年間は陸上部員と草むしりをしたといいます。



▲飾らず話される針谷先生

日頃の指導で大事にしていることは、「挨拶・返事・仕事・感謝」で、群馬県内ではよく出来るけれど、外に行くとまだまだだといえます。チームワークを生かして指導するので、3年生がお手本を示し仕事をするのを2～1年生が見習っています。仕事は、上級生が進んでやるので、下級生はすることがなくなってしまうことがよくあるそうです。

▼針谷先生の一言ずつに学ぶ塾生



距離感を大事に指導

集団を伸ばす秘訣は、ひとつの集団の下位部分に目を向けることだといえます。やる気がまったくなく運動神経も0のような生徒を指導するのは困難だけれど、伸びしろのある下位集団を指導によって伸ばせれば、上も下も刺激するので効果的だということです。

あまり個々の生徒に近づき過ぎないようにし、遠くから全体の動きが見えるような距離感を大事にした指導を心がけているそうです。

いい集団が育つ

全国中学校大会の1500m走優勝者が、県の駅伝大会でチームとして7位の賞状ももらった時に「先生、この7位の賞状が嬉しいです。入野中の仲間と取ったことがうれしいです！」と涙を流して喜んだといえます。

また、駅伝大会に向かうバスの中で、選手でもない生徒が車酔いでゲロしてしまったのを部員みんなで片付けたことがあったそうです。しかも、選手も含め素手で片付けた生徒たちが、何もなかったようにその後の活動に移っていたというのです。これを見て、「すばらしい生徒だなあ。これなら優勝も狙える」と心から感じたそうです。

仕事も社会もチームワーク

入野中は生徒がいいそうですが、教師の人間関係もいいそうです。お互いがチーム意識を持ってやっているとのこと。

ラグビーで身につけた「キャプテンシー」というものを大切に、すでに年齢が上のほうに来ているので、職場の雰囲気や和気藹々としたものにしようといっているということです。キャプテンシーの心は犠牲的精神と言え、「トライして喜ぶな！」という教えに象徴されるそうです。それは「ガッツポーズを取るな！」ということでもあり、自分一人で決めたのではないからということなのだそうです。

お知らせ

第43回「まごころ塾」

平成20年3月5日（水）午後7：00～9：00 高崎市東部公民館

内容について検討中です。ご意見あればお聞かせください。

なお、塾の7年目の初回となりますので、会費¥2000をご用意ください。後日、案内状は改めて発送します。